

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成 24 年 6 月  
長野市（長野県）

## 全体総括

## ○計画期間：平成 19 年 5 月～平成 24 年 3 月（4 年 11 ヶ月）

## 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき「門前都市 ながの ～心潤う 歴史と文化が賑わう まち～」を目指して各事業を実施したところ、善光寺周辺地区の歴史的景観の保全と再生が進み、観光客の増加など賑わいが創出された。また、善光寺門前の若者を中心に、空き家等を改装して起業する新しい動きが生まれ、地域住民との交流や旅行者への情報提供などを通じ、民間主導のまちづくりが進められ、他の地区へも波及しつつあり、好影響をもたらしている。

このほか、長野駅前の市街地再開発事業が終了し、周辺の既存店舗と相まって幅広い世代の集客効果や回遊性が高まり、まちなかの賑わいに大きく寄与している。特に中心市街地のほぼ中央に位置する「もんぜんぷら座」や「生涯学習センター」の利用者数が大幅に増加し、多様な人々の集客・回遊の拠点機能を果たしており、まちなかの賑わいに大きく寄与している。

しかし、一部で賑わいの回復がみられ、交流人口の増加がうかがえるものの、中心市街地全体の活性化には至らず、特に権堂町及びその周辺地域においては、空き店舗や低未利用地が増加している。

このような状況から、地元を中心とする権堂まちづくり協議会が設立され、空き店舗を活用して権堂まちづくりセンターを開設するなど、まちの再生に向け動き出したところである。

## 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

計画していたハード事業やイベント等のソフト事業は概ね実施でき、当初の予定どおり進めることができた。

しかし、計画策定や調査事業については、検討が進められたものの、具体策に移行することができなかった事業もあった。

リーマンショック以降の景気の低迷等により民間マンション等の建設が、中止、凍結されるなど、数値の上では目標を上回ることができなかった指標もあるが、各種取組みにより、まちなかの居住人口は増加した。

また、上記「1.」のとおり、まちなかには活気が戻り、歩行者通行量の指標には直接的に反映はしていないが、年間を通し、中心市街地の交流人口は増加している。中心市街地全体の活性化には至っていないものの、長野駅周辺やもんぜんぷら座を中心とした中央地域の一部では活性化が図られ、まちなかの賑わいの回復がみられる。

## 3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（長野市としての見解）

活性化を図ることは、行政だけでも、また、地元住民、商工団体だけでも難しいことから、多様な人々の参加を促し、中心市街地全体の活性化への関心、機運を高めていった。これにより、民間目線での意見をまとめられ、もんぜんぷら座の運営、また、民間主導による空き家再生や起業、イベント等が実施されたほか、特に衰退の著しい権堂地区においては、地元住民や商店街関係者が中心となり、権堂地区の再生を目指し各種の取組みを提案し、その実現に向け精力的に活動を開始することができた。

#### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組を振り返ってみて(協議会としての意見)

第一期基本計画に位置づけられたハード事業及びソフト事業は、公民協働により各種事業に精力的に取り組み、概ね実施できました。それにより、一部では活性化が図られました但し中心市街地全体の活性化には至っていない状況です。

特に、活性化の重要なテーマである居住人口は、景気の低迷により民間マンション等の建設が中止や凍結されるなど、その増加が図れず課題を残す結果でありました。

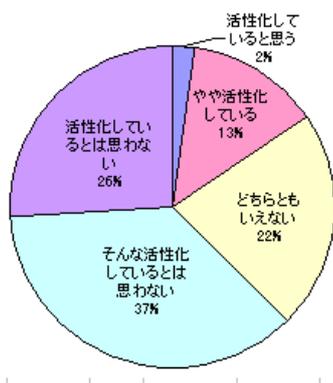
今後は、本協議会としても「まちなか暮らし」の魅力の発信や、継続した居住のための環境整備の実現に向けて、公民協働により、更なる中心市街地の活性化に向けて努力していく所存であります。

#### 5. 市民意識の変化

##### (1) 中心市街地活性化への評価

平成23年7月14日から31日まで実施した市民アンケートによると、中心市街地活性化への評価については、「活性化していない」と思っている市民が約60%強と多いが、5年前と比べての中心市街地の魅力については、「上がった」との評価が約4割にのぼり、「下がった」との評価を上回った。

・中心市街地活性化への評価



・5年前と比べての中心市街地の魅力



##### (2) 分野別の満足度

###### ① 目標1 訪れたいまち(主に観光に関すること)

主に観光に関する満足度 DI 値については、「門前町としての個性と魅力がある」37.4%、「街並みがきれい」14.7%と続き、「まちなかの移動が便利・わかりやすい」は-19.4%である。

###### ② 目標2 住みたいまち(主に居住環境に関すること)

主に居住環境に関する満足度 DI 値については、「安心、安全で住みやすいまち」51.5%、「花や緑に彩られた街」30.6%と続き、「住みたい・住み続けたいまち」は-63.3%である。

###### ③ 目標3 歩きたいまち(主に交通・商業に関すること)

主に交通・商業に関する満足度 DI 値については、「歩きやすい」が 18.1%と唯一プラスとなっているが、「魅力ある店舗が多い」-35.1%、「高齢者が安全に移動できる」-24.2%と、その他項目はすべてマイナスとなっている。

###### ④ 目標4 参加したいまち(主に市民活動に関すること)

主に市民活動に関する満足度 DI 値については、「幅広い世代が楽しめる場がある」-30.2%、「イベント等ができる広場がある」-18.4%と、各項目すべてにおいて、マイナスである。

(3) 今後取り組んでほしい内容

第一～第五地区元気なまちづくり市民会議(※注)においてアンケート調査を実施し、中心市街地をよりよくするために、取組んで欲しい内容を聞いたところ、「商店街等の活動」「居住人口の増加」「観光客の増加」が上位を占め、「日用品等の店舗の充実」「特色ある街並み・景観」と続いている。

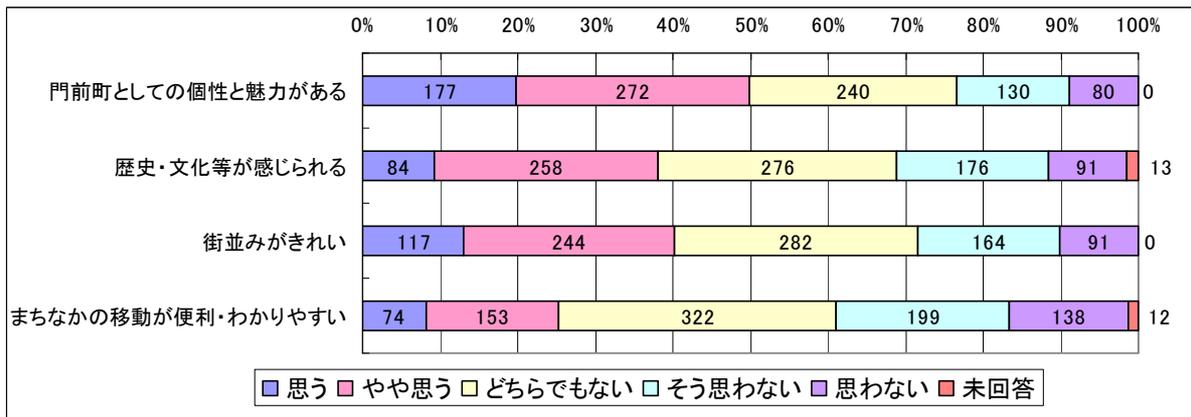
※注 元気なまちづくり市民会議

市民と市が抱えるそれぞれの課題や情報を共有する場とすることで、市民自らもまちづくりを考え、市民と市が一体となって協働の市政を推進することなどを目的に毎年開催する市民会議。開催は市内全 32 地区を基本に、1 地区単独または複数地区合同での開催とするもの。

・目標1 訪れたいまち(主に観光に関すること)

(N=898)

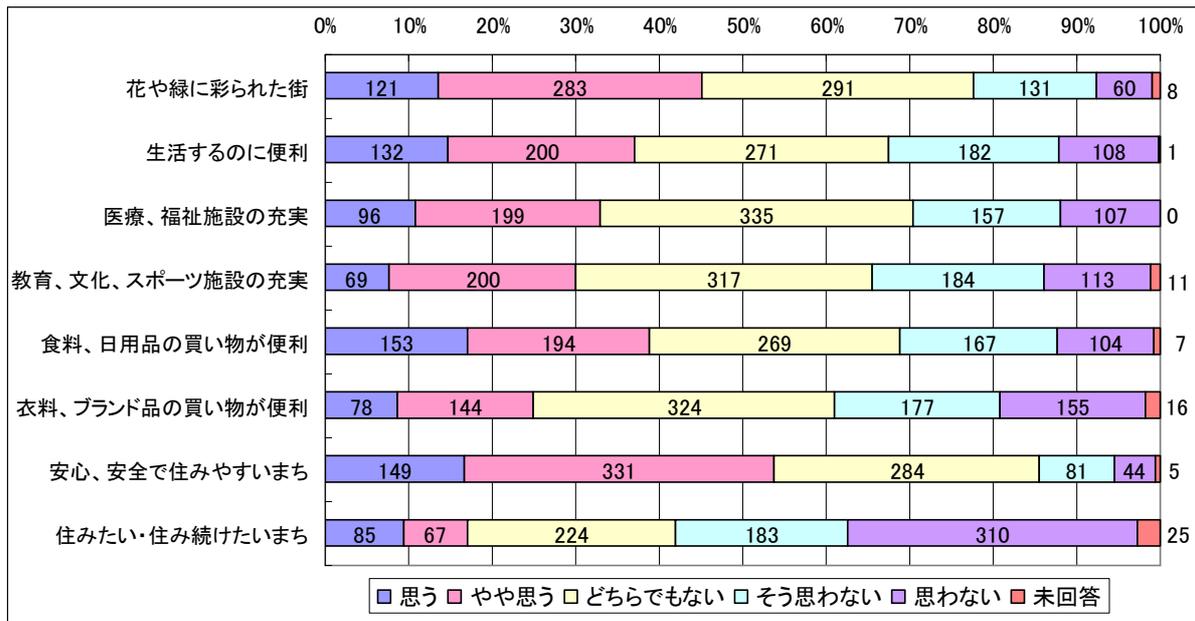
	思う	やや思う	どちらでもない	そう思わない	思わない	未回答	満足度 DI 値
門前町としての個性と魅力がある	177	272	240	130	80	0	37.4%
歴史・文化等が感じられる	84	258	276	176	91	13	7.6%
街並みがきれい	117	244	282	164	91	0	14.7%
まちなかの移動が便利・わかりやすい	74	153	322	199	138	12	-19.4%



・目標2 住みたいまち(主に居住環境に関すること)

(N=894)

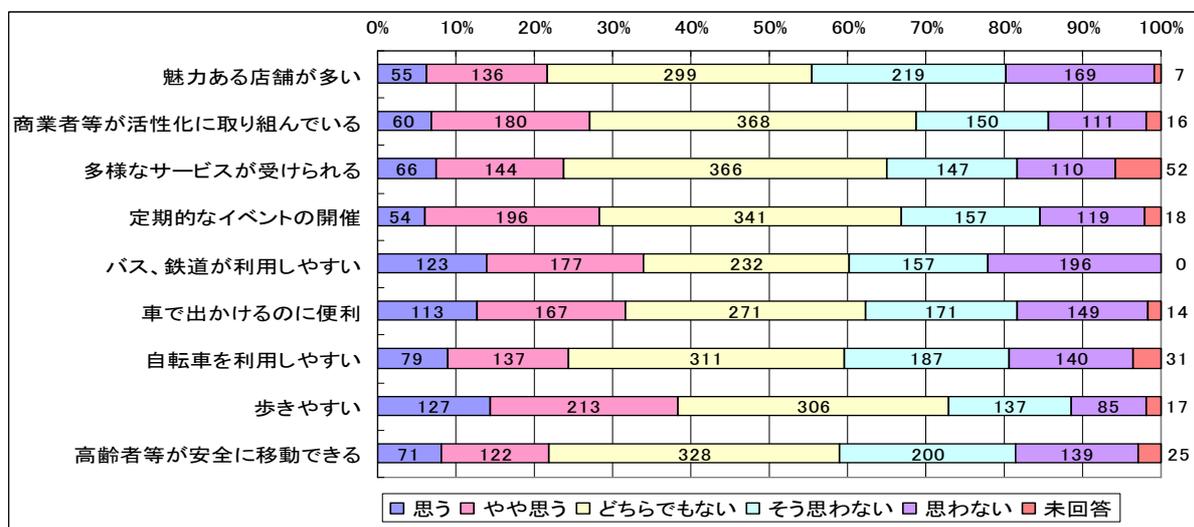
	思う	やや思う	どちらでもない	そう思わない	思わない	未回答	満足度 DI 値
花や緑に彩られた街	121	283	291	131	60	8	30.6%
生活するのに便利	132	200	271	182	108	1	7.4%
医療、福祉施設の充実	96	199	335	157	107	0	2.2%
教育、文化、スポーツ施設の充実	69	200	317	184	113	11	-8.1%
食料、日用品の買い物便利	153	194	269	167	104	7	14.0%
衣料、ブランド品の買い物便利	78	144	324	177	155	16	-20.9%
安心、安全で住みやすいまち	149	331	284	81	44	5	51.5%
住みたい・住み続けたいまち	85	67	224	183	310	25	-63.3%



・目標3 歩きたくなるまち(主に交通・商業に関すること)

(N=885)

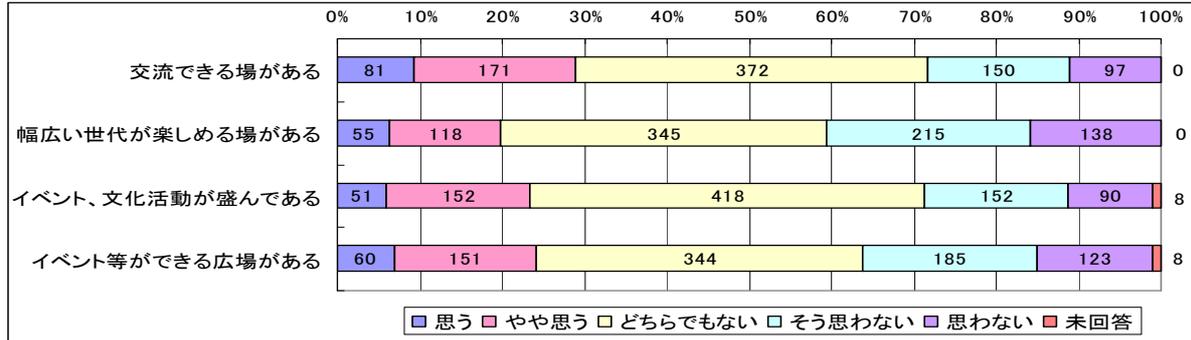
	思う	やや思う	どちらでもない	そう思わない	思わない	未回答	満足度 DI 値
魅力ある店舗が多い	55	136	299	219	169	7	-35.1%
事業者等が活性化に取り組んでいる	60	180	368	150	111	16	-8.1%
多様なサービスが受けられる	66	144	366	147	110	52	-10.3%
定期的なイベントの開催	54	196	341	157	119	18	-10.3%
バス、鉄道が利用しやすい	123	177	232	157	196	0	-14.2%
車で出かけるのに便利	113	167	271	171	149	14	-8.6%
自転車を利用しやすい	79	137	311	187	140	31	-19.4%
歩きやすい	127	213	306	137	85	17	18.1%
高齢者等が安全に移動できる	71	122	328	200	139	25	-24.2%



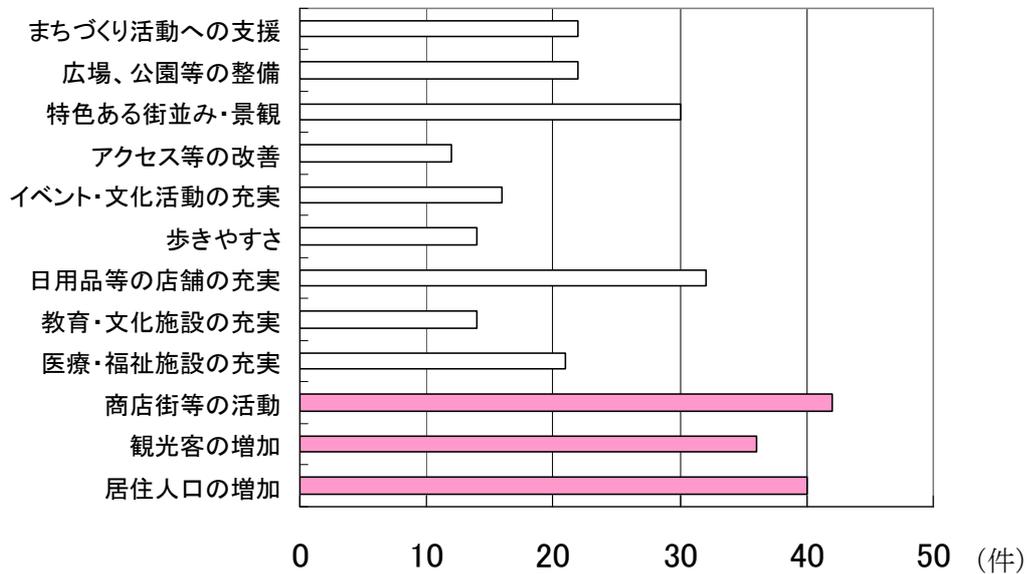
・目標4 参加したくなるまち(主に市民活動に関すること)

(N=871)

	思う	やや思う	どちらでもない	そう思わない	思わない	未回答	満足度DI値
交流できる場がある	81	171	372	150	97	0	-1.3%
幅広い世代が楽しめる場がある	55	118	345	215	138	0	-30.2%
イベント、文化活動が盛んである	51	152	418	152	90	8	-9.0%
イベント等ができる広場がある	60	151	344	185	123	8	-18.4%



・今後取り組んでほしい内容



6. 今後の取組

基本計画によって一部で賑わいの回復がみられ交流人口が増加するとともに、市民、商工団体、住民自治協議会、まちづくり活動団体等、幅広い層の人々により、まちづくりの機運が高まるなど一定の効果があつた。

基本計画の期間は終了したが、平成27年春の北陸新幹線金沢延伸と次期善光寺御開帳を見据えた中心市街地活性化の施策は引き続き重要であることから、策定した二期基本計画に基づき、国の集中的かつ効果的な支援を受け、更なる活性化に向け取り組んでいきたい。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
訪れたいまち	善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量	8,552 人	10,000 人	10,310 人	H23.7	A
住みたいまち	中心市街地(36 町丁字)の居住人口	9,660 人	10,900 人	9,817 人	H23.4	<u>b</u>
歩きたいまち	中心市街地(15 地点)の歩行者・自転車通行量	263,903 人	320,000 人	226,105 人	H23.7	<u>c</u>
参加したいまち	もんぜんぷら座と生涯学習センターの年間利用者数	300,726 人	368,000 人	426,233 人	H24.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

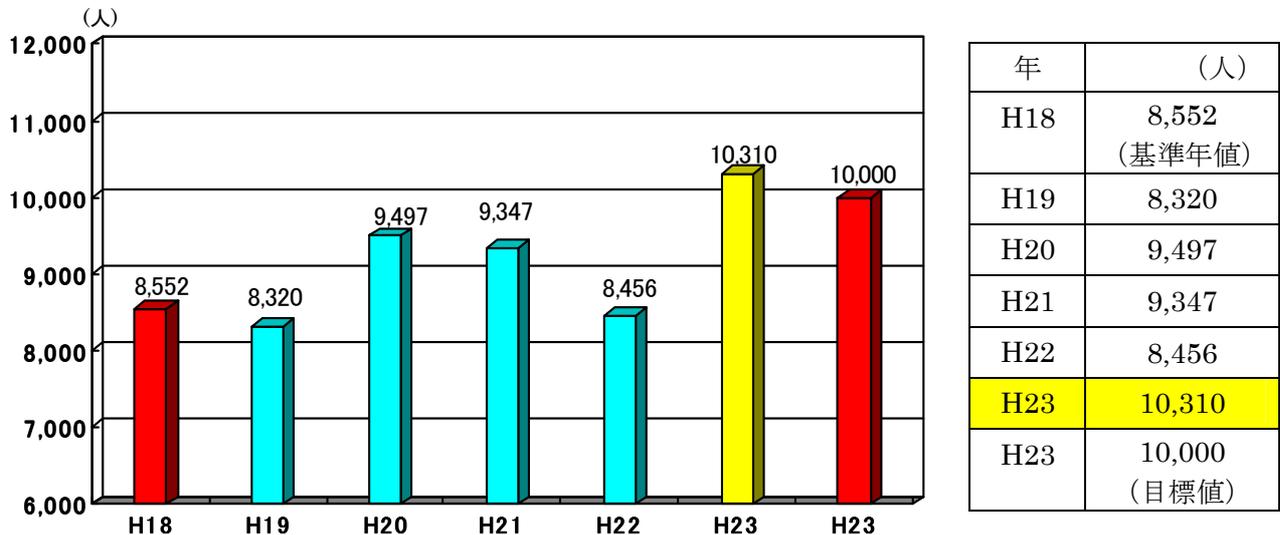
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

### 目標①「訪れたいまち」

「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量（人）」 \* 目標設定の考え方基本計画 P66～P70 参照

#### 1. 調査結果の推移



※調査方法：第3金曜日（平日）8時から20時まで 1地点3ポイントの通行量調査

※調査月：7月

※調査主体：長野市歩行者通行量調査実行委員会

※調査対象：歩行者、自転車

#### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

##### ①. 2.善光寺門前駐車場整備事業（長野市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成17年度～20年度
事業開始・完了時期	平成17年度～20年度
事業概要	善光寺門前における観光客や市街地への来街者に対する駐車場の再整備
目標値・最新値	最新値：利用台数 H20年度 34,516台 H21年度 49,444台（善光寺御開帳） H22年度 42,784台 H23年度 42,374台
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	善光寺正面に使いやすく分かりやすい駐車場を設けたため。
計画終了後の状況（事業効果）	善光寺門前の観光客や来街者に対する利便性が向上
事業の今後について	実施済み

②. 11.善光寺周辺地区街なみ環境整備事業（長野市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） 平成13年度～27年度
事業開始・完了時期	平成13年度～27年度
事業概要	善光寺周辺地区の道路・小路等の整備及び住宅等の修景助成
目標値・最新値	最新値：①道路美装化 善光寺南線 L=150m W=9～12m ②電線類地中化 長野北98・97号線電線共同溝 L=162m ③修景助成 32件 ④街づくり協定 9地区
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	修景助成のデザイン審査や道路美装化仕様決定について、まちづくり協議会を中心とした地元住民の協力が得られたため。また、電線類地中化について、電線管理者の合意が得られ事業に着手できたため。
計画終了後の状況（事業効果）	門前町としての雰囲気と賑わいを再生
事業の今後について	事業期間を延長し、電線類地中化事業等を継続して実施する。

3. 今後について

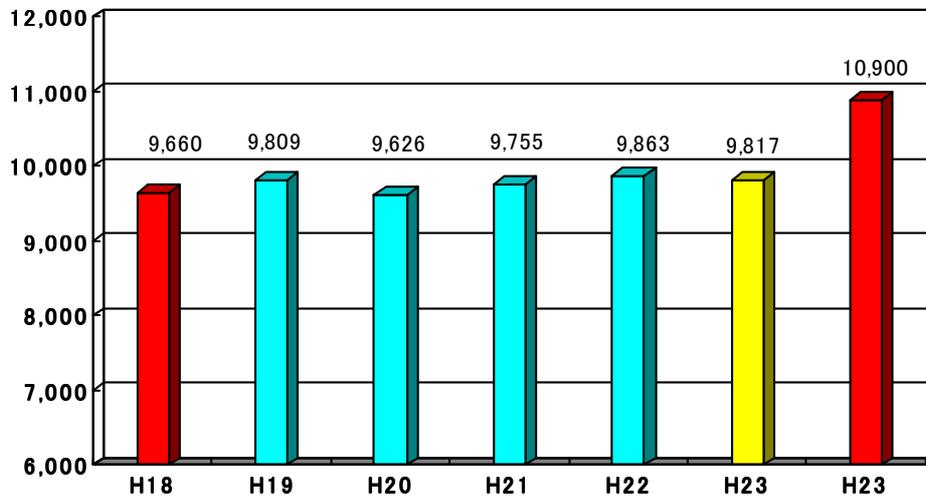
- ・ 基本計画掲載事業は、ほぼ計画どおり実施された。
- ・ 数値は目標を達成し+310人、103.1%となった。善光寺周辺地区街なみ環境整備事業を中心に、長野の個性ある歴史や文化をいかしたまちづくりを進めた結果、門前町らしい風情ある景観が保全・整備され、歩く楽しさを演出することができた。さらに、周辺の空き家等を改修し新たに起業する若者たちが増え、賑わいと新たなコミュニティが創出されている。
- ・ 平成27年春の次期御開帳を見据えた観光戦略を今後展開し、善光寺表参道界隈を「まち歩きも楽しめる地域」としての魅力向上を図るため、二期基本計画においても引き続き各種事業を推進し更なる回遊性の向上を目指していきたい。

## 目標②「住みたくなるまち」

「中心市街地（36町丁字）の居住人口（人） \* 目標設定の考え方基本計画 P71～P73 参照

### 1. 調査結果の推移

(人)



年	(人)
H18	9,660 (基準年値)
H19	9,809
H20	9,626
H21	9,755
H22	9,863
H23	9,817
H23	10,900 (目標値)

※調査方法：中心市街地区域内及び区域をまたぐ36町丁字の住民基本台帳人口を集計

※調査月：4月

※調査主体：長野市

※調査対象：中心市街地区域内及び区域をまたぐ36町丁字別の住民基本台帳人口

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 6.長野駅周辺第二土地区画整理事業（長野市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）平成14年～26年度 社会資本整備総合交付金（道路事業（区画））平成5年度～25年度
事業開始・完了時期	平成5年度～28年度
事業概要	長野駅東口に近接する当地区に宅地整備と併せ、広域交通の玄関口としての機能向上、基盤整備、都市計画道路、区画道路、歩行者専用道路、公園用地、長野駅東口地下駐車場等の整備
目標値・最新値	目標値及び最新値 ①面積：58.2haのうちH23まで完了33.4ha ②都市計画道路整備：総延長約4.1kmのうちH23まで完了2.5km ③区画道路整備：総延長約10kmのうちH23まで完了7.0km ④歩行者専用道路整備：総延長約1.3kmのうちH23まで完了0.7km ⑤公園用地整備：総面積約17,500㎡のうちH23まで完了0㎡ ⑥ペDESTリアンデッキ整備：約3,500㎡のうちH23まで完了2,200㎡
達成状況	全体計画の84.3%が完了
達成した（出来なかった）理由	長野市の新しい顔として、高速交通網の集積拠点として、都市基盤整備と安心安全なまちづくりを目標に、整備事業を効率的に進めている。
計画終了後の状況（事業効果）	土地区画整理事業をすすめ良好な宅地を整備することにより、まちなか居住人口が増加した。また、広域交通の玄関口として機能向上に向けた都市基盤整備により、多様な機能を持つまちの実現に寄与した。

事業の今後について	事業計画に基づき、進捗状況に併せ、都市計画道路4路線に重点目標を絞り、整備を進める。
-----------	--

②. 28. まちなか居住支援事業（長野市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業と一体の効果促進事業） 平成23年度～26年度
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	まちなか居住の促進のための施策の構築 民間活動団体と連携した、情報発信と「まちなか居住体験事業」を実施 建築士、公認会計士、弁護士等で「ながのまち暮らしネット」を結成し、リノベーション等による、新たな暮らしと既存ストックの有効活用策を提案
目標値・最新値	最新値：居住体験家族 4家族
達成状況	まちなか居住の促進のための「まちなか居住体験事業」を継続して実施できるようになった。
達成した（出来なかった）理由	まちなか居住促進施策に取り組む上で必要な民間活動団体との信頼関係を構築し、協働で実践できるようになったため。
計画終了後の状況（事業効果）	善光寺周辺地域では、既存ストックと門前町の地域コミュニティや暮らしぶりに魅力を感じて移住してきた者が目立った。
事業の今後について	民間と協働しながら更に進展させていく。 まちなかの住まいと暮らしに関する総合的な相談窓口開設に向けた研究を推進する。

3. 今後について

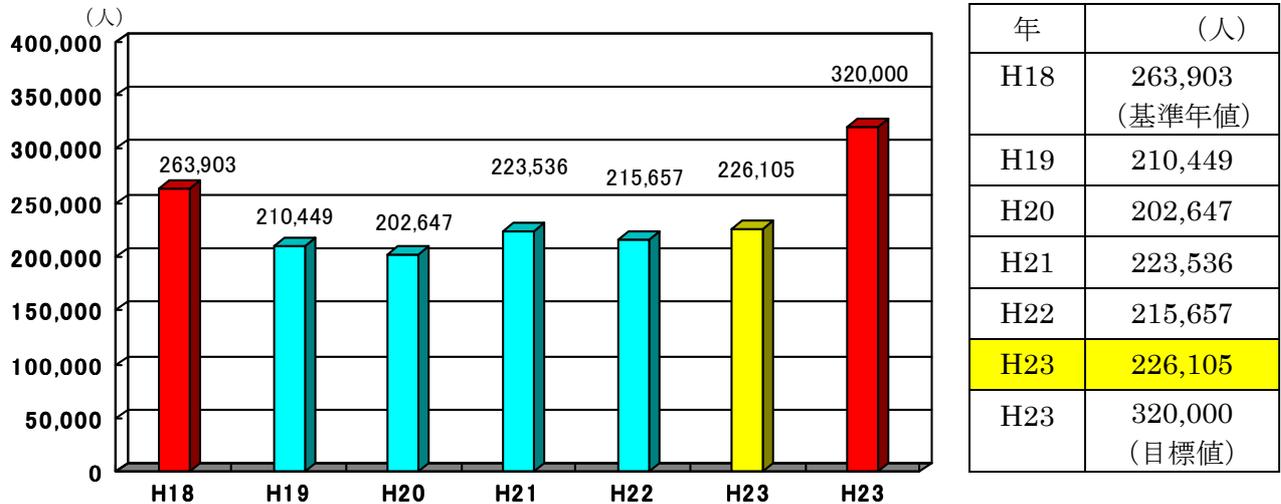
- ・ 基本計画掲載事業は、計画どおり進捗しなかったものが多く、数値も基準値は超えたものの目標値には大きく届かなかった。
- ・ 新規事業として追加した優良建築物整備事業が資金調達の目処が立たず中止されるなど、厳しい状況であった。しかし、一時中断していた民間事業者によるマンションの建設工事が再開されたほか、新たなマンションの建設も予定されてきており、徐々に回復の兆しが見られる。
- ・ 善光寺門前に点在する空き家の紹介や移住相談に取り組む民間団体と協働し、空き家の有効活用やまちなか暮らしの魅力を知ってもらうことで居住人口増加を図る「まちなか居住体験事業」を実施し、既存ストックの魅力と門前町の地域コミュニティや暮らしぶりに魅力を感じて移住した者もいる。
- ・ 今後は、市街地再開発事業によるマンションの建設等のハード事業のほか、民間と協働しながら、まちなか暮らしの魅力の発信や住み続けてもらうための環境整備など、国の支援策を積極的に活用しながら、二期基本計画においても引き続き事業を推進し、居住人口の増加を図っていきたい。

目標③「歩きたくなるまち」

「中心市街地（15 地点）の歩行者・自転車通行量（人）」

\* 目標設定の考え方基本計画 P76～P78 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法：第3金曜日（平日）8時から20時まで 15地点68ポイントの通行量調査

※調査月：7月

※調査主体：長野市歩行者通行量調査実行委員会

※調査対象：歩行者、自転車

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①.21 中央通り歩行者優先道路化事業（社会実験・整備計画検討及び策定）（道路整備）（長野市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画）平成22年度～25年度 道路整備のみ
事業開始・完了時期	【社会実験・整備計画検討及び策定】平成16年度～20年度 【道路整備】平成20年度～26年度
事業概要	善光寺表参道の歩行者優先道路化に向けた社会実験、整備計画の検討及び策定 善光寺表参道の歩行者優先道路化に向けた道路整備
目標値・最新値	目標値：L=約700m W=18m（平成26年度まで） 最新値：L=約88m W=18m
達成状況	進捗率 15.7%
達成した（出来なかった）理由	区間を4期に分けて工事する。平成23年度末現在、第1期区間工事完了。
計画終了後の状況（事業効果）	歩道にはベンチを配置した休憩スペースや緑豊かな快適な歩行者空間を創出し、各種イベントの実施と相まって、まちなかの魅力が増し、回遊性の向上につながる。
事業の今後について	歩行者優先道路化工事を引き続き実施し、平成27年春の北陸新幹線金沢延伸と次期善光寺御開帳を見据え、早期完了を目指していく。

②. 46.市街地循環バス運行事業（長野市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	H12 年度～
事業概要	40 人乗り小型バスを用いて市内循環バス「ぐるりん号」を運行
目標値・最新値	最新値：204,375 人
達成状況	年間 20 万人を超える利用があり、多くの人にとってまちなかの足として活用されている。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地エリア内を路線的にも時刻的にも効率良く運行している。
計画終了後の状況（事業効果）	公共交通の利便性を確保し、市民及び観光客のまちなか回遊に寄与した。
事業の今後について	運行を継続 車両の増車及び運行間隔の短縮、料金改正のほか、環境に配慮した電動バスの導入に向けた社会実験を継続して実施する。

3. 今後について

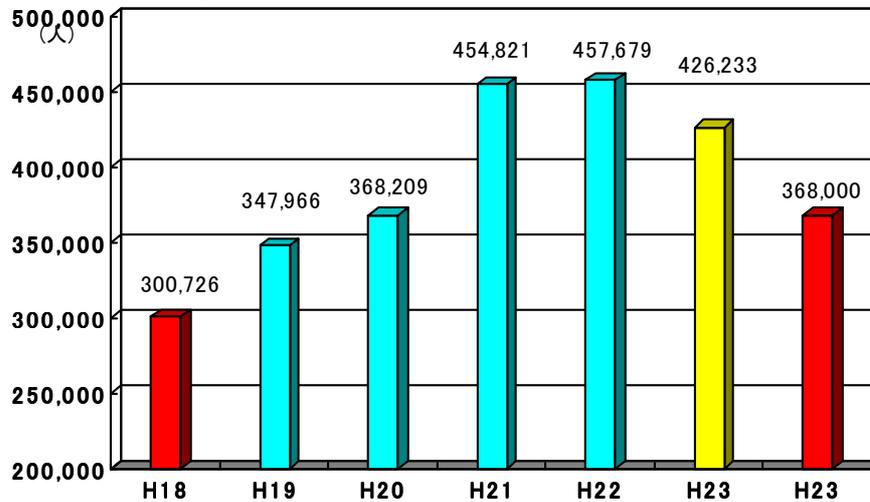
- ・ 基本計画掲載事業は、計画の半分程度は完了したものの、残りは計画どおり進捗せず、事業が遅れ気味となっている。また、新たに小路の整備事業などを追加し、更なる回遊性向上に努めたが、数値に直接反映させることができなかった。
- ・ 基準値と比べて、景気低迷の影響もあり、歩行者通行量の減少傾向に歯止めをかけた程度であり、目標数値には大きく届かなかった。  
しかし、長野駅前 A-3 地区市街地再開発事業により、飲食店や物販店舗等が開業し、幅広い世代の回遊性が向上した。また、ホテルの開業により、ビジネス客及び観光客の利便性も向上し、長野駅前の賑わい創出につながっている。
- ・ 今後は、主要事業である中央通り歩行者優先道路化事業及び長野駅善光寺口顔づくり事業を引き続き推進し、平成 27 年春の北陸新幹線金沢延伸と次期御開帳を見据えたハード・ソフト事業を展開し、国の支援策を積極的に活用しながら、二期基本計画において更なる、回遊性の向上を目指していきたい。

## 目標④「参加したくなるまち」

「もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数（人）」

\* 目標設定の考え方基本計画 P79～P83 参照)

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	300,726 (基準年値)
H19	347,966
H20	368,209
H21	454,821
H22	457,679
H23	426,233
H23	368,000 (目標値)

※調査方法：毎月、施設利用者の報告を受け、1年間の利用者を合計

※調査月：翌年度の4月

※調査主体：長野市

※調査対象：両施設の公益施設の利用者数

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 26.もんぜんぷら座活用事業（長野市 ㈱まちづくり長野）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成15年度～
事業概要	大型空き店舗を市が買い取り改修した、公益施設・商業施設等のテナントミックス施設である「もんぜんぷら座」の管理・運営
目標値・最新値	目標：288,000人 最新値：H19年度266,781人、H20年度290,485人、H21年度289,283人、H22年度306,821人、H23年度300,418人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	公民一体となり市民活動と交流と憩いの場として大型空き店舗を活用しようとしたので、市民にとって利用しやすい施設になっている。
計画終了後の状況（事業効果）	地区住民の活動拠点となる住民自治協議会合同事務所が入居、運営開始もんぜんぷら座オープン以来、公益施設利用者数200万人突破
事業の今後について	市民にとって安心して利用できるよう、安全面に配慮し、計画的に修繕し、適切に維持管理していく。

②. 27. トイゴ活用事業（長野市 トイゴ内民間事業者）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	市街地再開発事業で建設された「トイゴ」の運営 トイゴ内の生涯学習センターの管理・運営
目標値・最新値	目標値：80,000人 最新値：H19年度81,185人、H20年度77,724人、H21年度165,538人、 H22年度150,858人、H23年度125,815人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	生涯学習センターの自主講座の開催、大学と連携した各種学習機会の充実を図り、利用者の増加につながった。また、トイゴ商業施設運営委員会を定期的に開催し、イベントとの連携、トイゴ広場の活用等について検討し、利用者の利便性の向上を図った。
計画終了後の状況（事業効果）	利用者数は平成21年度より毎年目標値を超えており、生涯学習の拠点施設として定着した。
事業の今後について	生涯学習の振興と市民の積極的な社会活動を促すため、自主講座（トイゴセミナー）の開催とカリキュラムの充実に努める。

3. 今後について

- ・ 基本計画掲載事業は、計画どおり実施され、数値も目標を大幅に上回ることができた。
- ・ もんぜんぷら座の利用者数は、年間 30 万人前後と安定しており、幅広い年代の人々が利用し、まちなかの賑わいと中心市街地の活性化に大きく貢献している。
- ・ 生涯学習センターの利用者数も、自主企画事業の充実等を図り、平成 19 年と比較し約 1.5 倍の利用者数の増加がみられ、活性化に貢献している。
- ・ 今後も引き続き、地域住民や事業者、ボランティア団体、行政など多様な主体がそれぞれの活動をより推進し、地域ぐるみのまちづくり活動の喚起を促していきたい。